

平成25年 第1回(定例)日出町議会会議録(第3日)

平成25年3月5日(火曜日)

議事日程(第3号)

平成25年3月5日 午前10時00分開議

開議の宣告

日程第1 一般質問

散会の宣告

本日の会議に付した事件

開議の宣告

日程第1 一般質問

散会の宣告

出席議員(16名)

1番	土田 亮治君	2番	池田 淳子君
3番	藤井 博幸君	4番	工藤 健次君
5番	安部 三郎君	6番	田原 忠一君
7番	森 昭人君	8番	後藤 佑君
9番	白水 昭義君	10番	佐藤 隆信君
11番	熊谷 健作君	12番	佐藤 二郎君
13番	城 美津夫君	14番	佐藤 克幸君
15番	笠置 久夫君	16番	佐野 故雄君

欠席議員(なし)

欠 員(なし)

事務局出席職員職氏名

局長 工藤都四男君 次長 安田加津浩君

説明のため出席した者の職氏名

町長	工藤 義見君	副町長	堀田 義人君
教育長	石尾 潤治君	会計管理者	酒井 保彦君
総務課長	木付 尚巳君	財政課長	高倉 伸介君
政策推進課長	越智 好君	契約検査室長	川野 敏治君
税務課長	脇 英訓君	住民課長	利光 隆男君
福祉対策課長	原田 秀正君	健康増進課長	河野 王見君
生活環境課長	佐藤 寛爾君	商工観光課長	河野 晋一君
農林水産課長	村井 栄一君	都市建設課長	川西 求一君
上下水道課長	村岡 政廣君	農委事務局長	野上 悟君
教育委員会教育総務課長 ...	宇都宮敏樹君	教育委員会学校教育課長 ...	清家 健志君
生涯学習課長	宮本 洋二君	監査事務局長	小野裕一郎君
総務課主幹	堀 雅之君	財政課長補佐	帯刀 志朗君

午前10時01分開議

議長（佐野 故雄君） 皆さん、おはようございます。引き続き御苦労に存じます。

・

開議の宣告

議長（佐野 故雄君） ただいまの出席議員は16名です。定足数に達していますので、これより本日の会議を開きます。

会議の議事は、お手元に配付しております議事日程により行います。

・

日程第1 一般質問

議長（佐野 故雄君） 日程第1、昨日に引き続き、一般質問を行います。4番、工藤健次君。

議員（4番 工藤 健次君） 4番、工藤健次です。通告に従って一般質問を行います。

一般質問が2日間にわたるのは、議員となって3年になりますが初めてで、議案質疑をする人も多くいたので、やっと議会改革が前に進み出したのではないかと考えております。我々の任期もあと1年となりました。本日は2名で時間もある関係でしっかりと気合いを入れてやっていきたいと思っております。

はじめは、職員の意識改革についてお伺いをいたします。

第2次行財政改革プランを平成22年度から24年度までの3年間で推進をしてきたわけですが、その中の改革の柱に掲げていた1つの職員の意識改革と人材育成が進んでいないように見受

けられます。意識改革は、何よりも優先すべきことで根幹の部分であり、本日は意識改革に絞って3年間の成果を確認したいと思います。

第2次行政改革プランがスタートしたときには、若手職員の意識改革チームが研修の充実、それから、職場環境の成果を上げるために目標管理などの整備を新たに構築する必要があるなどとして取り組んでいたもので、すばらしい取り組みで職員も変わっていくものと注目をして見ていました。

いつの間にか、この改革チームの存在がわからなくなっており、最近はまだ改革の意欲が、何かなくなったように思います。後の質問にも関連しますが、町民に迷惑をかけたり困らせたり、検討結果が出てこなかったり、やるように言ってもやらないなど、こんな意識で業務を続けていたら町民は町政に失望します。意識が変わらないと改革が進まないわけで、12月議会では体験型の職員研修について質問をし、今回、意識改革の質問をすることにしたわけで、先に3年間の職員の意識改革の総評を町長の口からお聞かせいただきたいと思います。

あとの質問は質問席で行います。

議長（佐野 故雄君） 政策推進課長、越智好君。

政策推進課長（越智 好君） 工藤議員の御質問にお答えをしたいと思います。

おっしゃるとおり、意識改革というのは非常に重要なことでございますし、やはり職員が資質を向上して町民主役の業務に取り組むというのは、住民サービスに取り組むというのは当然のことだと思っております。そのためには、私たちやはりそういう町民主役の気持ちを持って業務に取り組まなきゃいけないと、そういうふうには思っております。

職員の意識改革につきましては、平成22年第4回議会定例会の一般質問にて町長がお答えをしておりますように、職員の意識改革につきましては、日出町を担う職員の自覚を養うためにも、資質の向上とスキルアップを目指すためにも、研修を徹底的に行うことだということでありまして、22年度から24年度の3年間、研修には相当の予算もかけ、内容も充実させてまいりまして、職員のスキルアップを図るためさまざまな研修に取り組んでまいっております。その結果、3年間である程度の効果はあったのではないかと考えております。

平成21年度の予算額を見ますと、34万9千円でしたが、平成23年度につきましては、149万5,138円という形で4倍近くになっております。また、受講人数につきましても、21年度が302人に対しまして、23年度が463人と、そういう形で受講者も多くなっております。

今後とも、職員の意識改革を図るために職員研修は充実させていかなければならないと思っておりますし、何よりもやはり、職員一人一人がその自覚を持って業務に取り組むことだと思っておりますので、そういう意識を目指すためにも、芽生えるためにも、その研修という取り組みに

ついてはかなり必要になってまいります。

次に、おっしゃられた意識改革チームについてでございますが、どうなっておりますかということでもあります。

この意識改革チームにつきましては、平成21年9月に第2次行財政改革プランを案のあるものにするために、専門部会では十分に調整できない改革項目につきまして、専門的に調査・研究を行う目的で、機構改革推進チームというものと、それから意識改革推進チームというものと、コミュニティ推進チーム、この3つを結成をしております、その1つであります「意識改革チーム」につきましては、御存じのように企業理念というのがございますが、この企業理念に匹敵する、職員が目指すべき目標を掲げた「日出町経営基本方針マネジメントベーシック21」、これでございますが、これを作成をいたしております。

この中に、職員の基本理念というのがございまして、1から5まで、これは、若手職員10名で結成してつくっておりますけど、この冊子の中の理念につきましては、「常に町民のニーズを探求し、町民の立場に立つ職員を目指します」「町民との信頼関係を築き、協働のまちづくりに取り組みます」「変化を恐れず、挑戦する勇気を持って自己改革に取り組みます」「町民全体に誠実な、かつ公平・公正なサービスを責任もって提供します」「役場全体が一つのチームとなって経営感覚を持つ総合行政を目指します」、こうすることで基本理念を掲げまして、このできましたものにつきましては、平成22年の3月に作成しまして町長に提出をいたしました。

これは、町民が主役の町政を目指すために職員が、町民から見た物差しを常に自分自身に押し当てながら日常の仕事に取り組むための理念を掲げております。この意識改革推進チームにつきましては、先ほどの目的もございましたように、日出町経営基本方針の提出をもって役割が終了したということになります。

あと、このことにつきましては、今、先ほど工藤議員がおっしゃられたような人材基本方針なりに反映をさせていきたいと、そういうふうに思っております。

以上でございます。

議長（佐野 故雄君） 4番。

議員（4番 工藤 健次君） 先に町長の答弁をということでお聞きしたんですけど、町長に3年間の意識改革がどの程度進んで、どういう評価をしたかということをお聞きしたかったんですけど、町長、御答弁をいただきたいです。

議長（佐野 故雄君） 町長、工藤義見君。

町長（工藤 義見君） お答え申し上げたいと思います。

私は、やっぱり日出町の将来を担う町職員は、前例踏襲を避けて進取の気風を持って、やはり町政に取り組むということが、私は前提だと思っております。

したがって、第2次の行財政改革に一番先に上げたかったんでありますが、そういうふうにはなっておりませんで、一番最後に意識改革と給与問題を取り上げております。もう最優先してやっております。御発言の中でやや、当初の1次行財政改革に比べてちょっと緩んでるんじゃないかという御発言がありました。私は、その発言はやっぱり否めないなと思います。やっぱりもっと引き締めて町職員一体となって新しい町政に向かうべきだと、そういうふうに思っております。

私が、第3期町政に当たって、一番最初に唱えたものは、「協働で育む元気、発展のひじ町」と、こういうふうに申し上げたわけであります。ぜひ、多くの町民の皆さん方と一体となって、さらに日出町の前進を図っていくと、これが、私の3期目の基本的な目標であります。

きのうも、いろんな御叱正をいただきましたけども、私は少々厳しくても徹底的に職員の意識改革は進めないといけないと、そういうふうに思って、私の改革は毎日がそうであります。職員と接すると十分お話もお聞きしますが、間違っていることについては革新・改革してもらおうと、こういうことが基本でなければならんと、そういうふうに思っておりますので、私の気持ちとしては、1次も2次も3次もないわけであります。常に目指すのは、町民の皆さん方の福祉の向上と、あるいはまた、町民の皆さん方に対するサービスの向上であります。公務員は全体の奉仕者であります。町の皆さん方に対する奉仕者であります。徹底的に奉仕の心を身につけていくといえますか、皆さんにそれを十分遵守していただくと、こういうことが私の基本的な姿勢であります。

多くの皆さん方からの御発言、あるいはまた、町民の皆さん方から各種会議等でお話を聞きますのは、もう少し職員がしっかりしてもらいたい、頼もしくなってもらいたい、もう少しあすを担ってしっかりとした町政を展開してほしいというのが、私は一つの皆さん方の御希望ではないかと、そういうふうに思っておりますので、先頭に立って今後ともやってみます。これまでもやってきた以上に、私は緩むことなく頑張りたいと思います。

以上であります。

議長（佐野 故雄君） 4番。

議員（4番 工藤 健次君） まだなかなか意識改革、非常になかなか難しい問題なんで、なかなかまだ進んでいないようにこう思うんですけど、1つ、きのう議案質疑で聞こうと思ったんですけど、質疑する方が多かったので、きょう、一般質問するこの中でちょっと聞こうと思いました。

1つ例があるんですけど、今25年度の予算で中央公民館のホールの音響設備の整備事業の件が、861万円の予算で上がってます。

この件は、ことしの1月の4日に、新年互礼会のときに音響機器の状態が非常に悪かって、私、担当委員会なんで担当課長の方に「もうこれはだめですよ」と、補正で専決でするようにという

ことをお願いをしたはずなんですけども、先月の16日か、健康増進課の「安全・安心な食の講演会」のとき、町長も一緒に聞かれたと思うんですけど、あの2時間にわたる講演の中で、外部から講師を招いて、それから200人近い町民の方が来て、1階から2階の席まで上がって、そして音声が途切れたり入ったり途切れたり入ったり、2時間延々と続いて、そういう状況をよく町長、御存じですよ。なぜこういう新年度の予算になったか、こういう意識の中で仕事をしなくてもいいんですか。これは教育長。

議長（佐野 故雄君） 教育長、石尾潤治君。

教育長（石尾 潤治君） 工藤議員の御質問にお答えをしたいと思います。

まず冒頭に、公民館のホールの音響ふぐあい等で、御利用の方々に大変これまで御迷惑をおかけしましたことを深くおわび申し上げたいというふうに思います。

今お尋ねのように、これを早急に解決をするという御指摘、これまでもいただいております。職員とも相談をしながら、何とかこれを早く改善する手だてはないのかということいろいろと手を尽くしたわけです。特に、いろんなホールでの行事の中で、2階に調整室がありますが、そこに上がって音量あるいは接続等について、そのたびに調整をしたんですが、何とかその修理といたしますか、それをしなくてもやっていけるのではないかと努力はしたわけございます。ところが、いよいよ最終的にはそれも間に合わないということがわかりまして、業者のほうに依頼をしたということが実際の経緯でございます。

今、意識改革ということにかかわって御質問があったと思いますが、確かにこの問題についても、結果から見ると非常に時間がかかってスローペース、いわゆる臨機応変の対応ができていないんじゃないかという御指摘がありました。職員としても何とか金をかけずにこれが修繕できるんじゃないかという、自分たちの努力をまず優先したということでございます。

以上でございます。

議長（佐野 故雄君） 4番。

議員（4番 工藤 健次君） 今、教育長から自分たちのその、あれを優先したということなんですけど、そこがちょっと若干おかしいんじゃないかと、こう思うんですけど、町民に業務をしていく中で迷惑をかけていいですか、町長。

互礼会の際にあんだけ町内の企業の、それから団体のトップの人が100人ぐらいいる中であんなぶざまな行事をやって、そして、その機械をまた使うちゅうのはもうほんと考えられないですね。この間の講演なんか、私もう人生60年になるけど、あんな講演聞いたのほんと初めてですわ、ひどかったの。

そして、その後の挨拶のときに、そりゃ、政策推進課長も健康増進課長も、講師、それから聴講に来た人たちにお礼の挨拶をしたけども、その中で一言でも、多分その機器のふぐあいで御迷

惑をかけたという挨拶は、私は入ってなかったような気がするんですけど、そういうことが、そういう気配りが入れば、後から増進課長に聞いたら、ほとんどの方が「聞き苦しかった」、アンケートの中に書いてたちゅうんですよ。そのときに一言でもそういう配慮があれば、多分そういうふうになんかアンケートの中にも書くことが少なかったんじゃないかと思うんですけど。

副町長、どうですか、こういうその意識改革について、前の話を持ち出して悪いんですけど、シルバーの件でもあんなだけ言って、何回も言って、今度やったらすんなりスムーズにいったら、あんなだけの応募があったやないですか。そういう意識改革、何かおかしいんじゃないですか、今私が言ったことについて、その機器の件についてもですね。どう思いますか。

議長（佐野 故雄君） 副町長、堀田義人君。

副町長（堀田 義人君） 工藤議員、御指摘のとおりだと思います。

職員に対しましては、常日ごろから町長も申し上げておりますが、住民に対しましては親切、丁寧、そして、スピード感を持って迅速に業務を遂行するようということも常々申し上げておりますし、そのためにも職員の意識改革というのは十分行うようということも申し上げておりますし、そのためにも、先ほど政策課長より答弁がありましたように、職員研修の充実、そういうことに努めておるわけでございますが、先ほど、今、中央公民館の件につきまして時間がかかりすぎると、そういう御指摘もございました。

そういうことも含めまして、今後職員に対しまして、先ほど申しましたように親切、丁寧、そして迅速に業務を行うように再度、私のほうからも指導していきたいと、そういうふうに思っております。

以上です。

議長（佐野 故雄君） 4番。

議員（4番 工藤 健次君） もう相当きついことを言ってるんですけど、昨日もいっぱいそういう関連の話が出てたんですけども、どうしたらこう、そういう意識が変わるんですかね、町長。

議長（佐野 故雄君） 町長。

町長（工藤 義見君） 私は、ホールを使う時間は私が一番だと、ここで。いろんな会議が行われています。研修会あるいは講習会、あるいはいろんな会議、文化関係の行事、私があそこを一番使ってる、今言われる気持ちはもう私のほうが強いかもしれないと思っております。そういうことから改善をして、私はしますので。

実を申しますと、電気が暗い、だから明るくしております。それから、机が傷んでおる、椅子が傷んでおるといことで、全部私が指示しました。それから、舞台の床が非常に傷んでおる、これも速やかにするように指示しました。しかし、私は、これも頻繁にわたって、議員よりも私のほうがひどい発言を内部でしているというふうに思います。

私が今考えておりますのは、やはり職員の評価制度を導入しないと、やっぱり職員が、何とい
いますか、十分評価をしないといかん、するかしんないか。

それと、私はここに持って来ておりますが、「親切、丁寧、笑顔で、仕事は迅速にスピードを
上げて」と、これが私の資料であります。これ、全職員に配っておるわけであります。議員の皆
さん方にもぜひ差し上げたいと思います。1月4日に新年になって職員の皆さんにこういうよう
な行政をしてほしいと、こういうことを申し上げて、これも同様に冊子にして全職員に配って
おるわけあります。

しかし、いろいろ考えてみますと、親切とは何なのか、丁寧とは何なのか、あるいは笑顔とは
どういうものなのか、やはり仕事を迅速にということはどういうものなのか、私は具体的に、私
は指示しているつもりであります。皆さんとしては一般論になっていると、私はここが問題だ
と思います。

やはり、迅速という意味は、速やかにするということであり。速やかにというのは、やっ
ぱり一定の手続があるんであります。それにしてもやはり手続を速やかにすると、もうこの舞
台の放送が悪いのは今に始まったことではないわけあります。

私はこの指示は、言いわけになるかもしれませんが、四、五回ではございません。問題は全庁
挙げて、私のこの指示が徹底するように行政的に配慮していかないといけないと思います。一部
の人たちはいろんな異論があろうと思います。異論があっても、やはり町長が言う指示につい
ては、別格であります。行政責任を持ってありますし、町民の皆さんとの約束であります。した
がって、そういうことをしっかり受けとめる、私は幹部職員に育てていきたいと、そういうふう
に思ってます。

いろいろ批判をすることも簡単ではありますが、要は、町民の皆さんに迷惑かけずに喜んで
いただく、または住んでよかったとか、いろんな誇りに思えるようなまちづくりをしていくことが
基本であります。少々のことであっても、私は貫いていかなきゃいけないと、そういうふう
に思っています。

いろんなものにスピードが足りないということは、大変私も反省をさせていただきます。もっ
ともっとスピードを上げてするように、私みずからがさきに言いますように、仕事は迅速にス
ピードを上げてすると、日ごろの日常業務については親切で丁寧で、そして町民の皆さん方に笑
顔で接すると、これは、私が町長に就任してからの発言であります。今、申し上げていること
ではありません。ですから、私の言うことを職員一人一人が自覚して、私は、相当多くの皆さん
方が町の職員を、以前よりは評価していただいている、これも事実であります。

しかし、それでいいかと言いますと、もっともつとであります。そういうことの反省に立って、
今後ともそういう課題のないような、また、議員の皆さん方とか多くの皆さんから指摘されてお

るわけですので、私の発言が徹底するように、今後ともやっていきたいと思いをします。

大変、今回の事態は、私自身も会合に出ていますから、皆さんが町長の顔を皆、見るんであります。見られるたびに、私は恥ずかしい思いをしているわけであります。その気持ちもぜひ私は職員の皆さんにも理解して、問題は予算とか町の財政状況を職員の皆さんは心配されると思いをします。

きのうの議論の中にもいろいろ質問がありました。何を優先すべきかということについて、お互いにしっかり考えないといけないと、ただ形式的に財政が健全かと言ってるわけではないんです。しっかり町民の皆さん方に対する行政サービスを提供してこそ、適時適切にやってこそ、私は行政の成果だと、そういうふうに思っておりますので、言われる点については全ていろいろ申しましたが、おわびして今後とも迅速な行政を進めるように、先頭に立ってやっていきたいと思いをします。どうぞ今後ともよろしくお願い申し上げたいと思いをします。

議長（佐野 故雄君） 4番。

議員（4番 工藤 健次君） ただいま、町長から力強いその話を聞きましたので、あれなんですけども、機器が悪かったら、もう使われない機器をいつまでも使っていたというのはもう、ほんともう考えられんですね。もう使えないやつはもう使用禁止かなんかにして、借りてきて代替をしてするとか何かしてないと、試験をしたときに使えて、また始まったらまた途切れて途切れてってもう、これの繰り返しをしょったらもうほんと町民何百人の人に御迷惑をかけてしていつてるのか。

私は言われましたよ。「あんたら何しよんかい。話にしたことあるんか行ってから」、そういうふうと一緒にいた人はやっぱり言われましたわ。で、話はもうずっと前からしてると、話を聞いたらもう、何か9月ぐらいから見積もりをとってやってるということなんで、使えんのがわかったら、やはりかえて来るなり何かして、もう使ったらだめじゃと、使うからああいう貴重な時間をとって講演に来た人に御迷惑をかけるというようなことになるんで、ぜひそこら辺は町長、もうしっかりとやっていただきたいと思いをします。

きのうから、もう話は何回も出てますけど、我々公務員、一般職もそりゃ特別職も公務員は、きのう町長、地方公務員法のサービスのところを言われたけども、全体の奉仕者で職務の遂行に当たっては全力を挙げて専念せにゃいかんちゅうことでね、そういうふうにならなってるんで、みんな、そりゃ我々もそうなんですけど、そこら辺をぜひしっかりと対応していただきたいと思いをします。

それでは、また関連するような話になるんですけど、次は、工事関係の平準化ということについてお聞きをします。

これ、22年の9月議会で平準化の質問をしました。そのときに、3月、年度末になると工事

が集中してるっちゃうことはもうみんな、一般の人もみんな知って、迷惑をかけてるところもあるので、できるだけ平準化ということで話をしてきました。

そこで、23年と24年のこの平準化について、どういうふうになってるかということをお答えしたいと思います。

議長（佐野 故雄君） 契約検査室長、川野敏治君。

契約検査室長（川野 敏治君） それでは、工藤健次議員の御質問にお答えいたします。

工事関係の入札平準化で、平成23年と24年の対比状況はとの質問でございます。

公共工事の入札平準化に関しましては、以前より年間を通して執行が行われるように早期発注、早期完成を心がけてまいりました。現在、発注目標を上半期で50%以上、第3・四半期、これは12月までですが、それまでに90%以上と定め発注計画を策定しております。

平成23年度は、上半期の件数で40%、金額で44%、また、第3・四半期までに件数で61%、金額で70%の発注を行っております。第3・四半期までの実績が下回った原因は、同年11月の町道堀南浜線の陥没事故の対応のため、予定しておりました発注の工事がおくれたことが主な原因でございます。

それから、平成24年度は、上半期の件数が34%、金額で36%、また、第3・四半期までに件数が76%、金額96%の発注を行いました。

しかし、24年度に関しましては、突発的な工事であります災害復旧工事が26件、発生しております。これを除きまして、上半期までに件数で45%、金額で38%、また、第3・四半期までに件数で90%、金額で99%を発注を行っております。第3・四半期までにほとんどの工事を発注できて、早期発注に関しては何とか達成できたのではないかなと思っております。しかし、平準化の観点から見れば、まだまだ不十分であります。特に、上半期の発注件数をもう少し伸ばす必要があると感じております。

そこで、今後は設計書作成時間の効率化、それから、設計書作成のロスの削減、それに加えて、用地交渉の迅速化、関係部署の緊密な連携、そういう職員間のさらなる意識改善や創意工夫をあわせて行い、さらに、予算の弾力的な運用などをあわせて行いまして、年度初めから工事が発注できるよう努力していきたいと考えております。

公共工事を担う建設業者は、技術者や職員の不足が現在大きな課題となっております。公共工事の入札平準化が少しでも課題解消に役立つよう、国や県をはじめとする各発注機関とも連携をとりながら、日出町も引き続き継続して、公共工事の早期発注と入札平準化に取り組んでまいります。

議長（佐野 故雄君） 4番。

議員（4番 工藤 健次君） 今、契約検査室長から説明があったんですけども、23年、

24年比較すると、若干前倒しになっているのはよくわかるんですけども、今、室長が言われたようにまだまだ上期のほうが不十分なところがあります。

業者さんは今の状況、話をすると、もう高齢化で作業員もいない、もうそういう状態になっているんですね。業者の数も昔から比べると随分減って、そういう中で月まとまって20件とか、そういう出し方をすると町内の業者さん、お互いに助け合って下請したり、こうしてやってきているのに、下請も行けない状態になっているんですね。

そういう状況をよく把握して入札を出していかんと、こっちは出せばいいちゅうてまとめてポーンとこう出す。そしたらみんな業者さん行き渡った、行き渡ったけども同じ時期に出して同じような工期になって、その中で、みんな今の状態どういうふうに言ってるかって言ったらね、「もうほんとどねえかしょくれ、あんた言うちょくれ」って、こういう話になっちゃうんですよ。去年も言ったんですよ。去年も言って、そういう話を、担当のほうに話をして、若干この数字を見れば前倒しになっているんですけど、もうほんと困ってますね。

去年7月に、災害があって県北、それから竹田のほう、災害があったときから復旧で入ってずっと業者さんもやってるし、県のほうも国のほうも災害の工事を出して順次やっていってるんですけど、ここは、日出町のほうは被害が少なかったんですけど、もう今の状況はどうかというと、重機を借るにも借りられないちゅうんですよね。それから資材の鉄板がないとか、ダンプも借りられないとか、そういう中で何かやりくりをしていってるんですよね。そういう状況なんですよ。室長も多分わかっていると思うんですけど。下水道課長もみんなその状況わかっていると思う。

業者さんはもう、水道業者さんなんかはほんともう、二、三人でやってるんですよ。そういう中で同じ時期にやって、最後はみんなどうな工事をやっても最後は舗装に入るでしょう。舗装に入ったら今度は、舗装業者さんが何十件という舗装を扱うんですよ。天気が安定してればいいんやけど、天気が安定してなかったら、みんなそこに集中してしまって、舗装屋さんなんかどげんしちゃうかって言ったらね、場所によっちゃもう昼も夜も寝らんでからやってる状況になっているんですよ。雨が降ってもやりますよ、最後は。流れるような状況になっても。工期切られて、工期内に終わらんかったらお金も入って来んし、そういうふうになっているんで。

ほんこの数字を見れば、24年度は前倒しになったなと思うんですけど、まだこの月で件数見たら数が多いんで、もうちょっとこうばらして、やはり補助金を取る分はすぐにできないかもしれないですけど、単費の分なんかについてはできるだけ前へ前へ持って行って、月にばらけて出すようにしていかないと、これも町内業者さん苦しめますよ、今の状況は。この辺、どうですか、町長、この実態はよく把握してますか。

議長（佐野 故雄君） 町長。

町長（工藤 義見君） 私も、長いこと行政をやっておりますので、その実態は十分わかります。

したがって、先ほど上半期に50%と、もう少し私は発注率を高める必要があると思います。言われるとおり、4月、5月、6月休んで、以降忙しくなって、最後もう年度末でと、こういうことであります。

こういうことを避けて、今までは債務負担による事業であるとか、あるいは基金を設けてすぐできないから基金の状況、緊急雇用対策、皆そうであります。国はそういうふうにして都道府県に基金を預けて、基金に金を積んで適宜実施しなさいと、こういう方法があります。

あるいはまた、15カ月予算をやったり、12カ月プラス3カ月、年度を超えて若干事業ができるようないろんな方法がこれまでも多くの国・県・市町村の段階でやられております。特に市町村の場合は、余り15カ月予算とか基金を設けてやるとかということについては、非常に問題がまた別な時点からあると思います。

したがって、私は、どうしても事前準備が必要だと思っております。今、先ほどのこの放送関係がありましたが、予算がついて、それからぼちぼち考えようかじゃなくて、今のうちにほとんどの計画が済んで、予算がついたらすぐかかると、そしてすぐできると、そういうような方向です。予算がついてからしばらくしてから、そろそろ時期だからかかろうかと、こういうことではもう遅いんであります。事前に多くの者が準備する必要があると、これは体制の問題もかかわってきます。

いろいろ課題があるんでありますが、私どもはそういうことを知って、一時期に事業が集中しないように、今回の場合のように日出町でも豪雨による災害がありました。これはもう国の予算を消化するためにある程度やむを得ないということがありますし、今回の日出町のこの24年度から25年度予算の中で繰り越した分が相当あります。やはりこれは年度内の事業が無理でありますから、24年、25年にかけて、24年に予算を組んだけども25年度に向けてやると、いろんな工夫は行っているわけでありまして。しかし、もっともっと私の業者さん皆さん方の対応を考えると、私どもも一段の奮起奮闘が必要だと思いますので、そういう対策については内部で十分検討させていただきたいと思っております。

議長（佐野 故雄君） 4番。

議員（4番 工藤 健次君） まだまだ先ほども話したように数字を見ると、4、5、6、7、8、9、ここら辺もうほんと数件ですね。それで、10月ぐらいになるともう月に23件とか15件とか25件とか、こういうあれになってるんで、契約検査室長、ぜひ町内の業者さんを困らせないように、ぜひそこら辺を配慮して入札を出していただきたいと思います。4、5、6、できないことないでしょう。そこはしっかりとお願いします。

それではまた、次の質問に移ります。次は、行政サービスということでお尋ねします。

もうこれで3回目になると思うんですけど、この行政サービスについては、まず1つは、試験

実施を検討すると、こう言っていた窓口業務の職員の対面方式の配置についてはどうなったかということと、それから、担当各課と調整・協議をすることによって、土日にするのか、1時間時間外で業務をするのか、そこら辺も検討を多分されてきたと思うので、この結果を御回答いただきたい。

議長（佐野 故雄君） 政策推進課長。

政策推進課長（越智 好君） 行政サービス改善の御質問にお答えする前に、先ほど研修の実績についてお答えした際に、149万5千円を平成23年度と発言したようでございまして、24年度でございますので、おわび申し上げます。

今、御質問のありました行政サービスの改善につきましてでございますが、窓口業務の見直しにつきましては、行財政改革の計画の1つでありますので、行財政改革の担当であります政策推進課のほうよりお答えを申し上げたいと思います。

まず、窓口業務の職員の対面式配置の件でございますが、実施する方向で検討しておりまして、実施する際に対面式にしたときの机の配置だとか、そういうものはかった際に、非常に事務室の構造、それから電算関係の配置によりまして、物理的に対面式の配置ということが不可能ということがわかりまして実施できませんでした。このことにつきましては、大変申しわけございませんでした。

窓口の土日、時間外業務の協議につきましては、県下市町村の状況を踏まえ、窓口担当各課で現在検討はしておる状況でありまして、今現在、県下市町村の状況を申し上げますと、合併をしまして窓口業務が遠くなるということで、その不便を来すということで、大分市、別府市、日田市、中津市、そして杵築市の5市が休日の窓口を開庁しているようでございます。

時間外窓口対応につきましては、現状でも事前に住民から連絡があれば、柔軟に対応しております。時間外にしても、次の土日にしても、それぞれの窓口各課において、現に対応しておるような状況でございます。

また、御存じのように、12市2町で対応しております「おおいた広域窓口サービス」によりまして、勤務先でも、他市町村でも住民票や印鑑証明書などの交付を受けることが可能になっておりまして、件数につきましても、21年度で611件から23年度では817件と、かなり増加している状況であります。

そういう理由によりまして、休日開庁しても来られる住民が少ないのではないだろうかとか、いろんなことが考えられます。現に、ある県下他市町村においては、年度末、年度初めの土日開庁を21年度、22年度に実施いたしましたけれども、利用者が非常に少なく、23年度から取りやめたという、そういう事例もございます。そういうことで、費用対効果の観点から、なお一層、引き続き検討していくことが必要だと考えております。

以上でございます。

議長（佐野 故雄君） 4 番。

議員（4 番 工藤 健次君） 検討して不可能ということだったんですけど、みんながみんな前向いていたと思うんですけど、みんながみんな席を正面向くことはない、一人でも多分、受付方式で一人でも向いたらいいんじゃないかと思うんですけど。

町長も前の質問のときに、「導入していかないと、いつまでも横を向いているのはよろしくない、鋭意検討します」ということを言われてたんですけど、やはりいつもいつも人が来るころはやはり一人でも正面を向いて対応するのが行政サービスの基本じゃないかと、こう思うんですよ。警察行ってもどこ行っても、みんな正面を向いてますよ。横向きに対応なんかしているところなんかはないですよ。

それから、1つ、これもまたちょっと例があるんですけど、今、申告の時期でたくさん庁舎へ来てます。それで、玄関、旧館のほうへはなかなかね、知ってる人は向こう上がります。知らない人はこっち上がってきますよね。正面から入ってきます。で、階段上がったりとエレベーターで上がって3階におります。今ホワイトボードにマーカーで書いてます、案内を。そして、向こうの壁に行ったら張り紙をしています。もう私何人が声をかけたんですよ。3階で迷ってます。ひどい人は4階に上がって行きよったですね。

あれ、看板小さいです。あんなんわからないです。赤い字でマーカーで書いてても、どこが担当して書いているのかわからないですけど、何人も迷ってましたよ。こんなんでいいんですか、町長。もう私、大分の商工会議所に行くんですけど、あっこも今、申告の時期で来てます。そして、大きな看板でもう誰でもわかるように太い字で看板書いてますよ。

毎年のことなんで、あんな間に合わせのですね、そりゃ、内部の会議やったらいいですけど、住民の方を迷わしていいんですか、町長。町長。

議長（佐野 故雄君） 町長。

町長（工藤 義見君） 至らんことが多々あります。もう、おわび申し上げたいと思います。

問題は、親切というものの先ほどの意味であります。常日ごろ、やっぱり親切でないといかん。この表示も親切です。丁寧の1つであります。したがって、何をどうすべきかというのは自主的に判断する。そこに、また見た人がまた意見を言うと、こういうことからやっぱり少し磨きをかけてすぐわかるように。

私も、別府市によく広域の会議で参ります。必ずエスカレーターでおりて、全部回ってみます。非常によく整備されて表示ができたりしております。

ですから、私、日出町をもっともっと他の市町村もまねて、やっぱ皆さんがどうしたらよくわかるのか、できたら4月から、よろず相談所 何でも相談所を設けたり、町民の皆さん方にそ

うというようなことに、きちっとした案内できる体制が多少でもできないかなと思って、今、内部で検討しております。いずれにしても、やっぱり何でも考えることが小さくて思い切ってできない。これは、私は日出町の特徴的なことだと思います。

やはり、そういうようなこと一段と、こういうことについても心配りができるそういう職員を、やっぱりどんどん養成していかないといかん。するのはするけどわかりにくいとか、位置がどうだとか、いろんな課題があります。

やはり、もう少し他の市町村だとか、団体で研修に行ったり、視察したり、やっぱり実感として見ないと、言うだけではやっぱり習得できないというところがあると思いますので、もう少し町外とかいろんな関係者へ、視察、見学等を積極的にやっぱり重ねていってこついでいくと、こういう姿勢が必要だと思います。全く私は、いろんな課題があるということは承知しておりますので、その都度、ぜひ御指示、御指導いただきたいと思います。

議長（佐野 故雄君） 4番。

議員（4番 工藤 健次君） それでは、もう最後になりますけど、職員の対面式のやつは、一人でもやはり受付方式で正面を向く、それから、土日の分についてはなかなか費用も発生するという事なんで難しんやったら、先ほど言ったように柔軟に対応しているんでしたら、PRもちゃんとやって住民の気持ちになって、やっぱ不便をかけないようにしていただきたいと思っています。

それから、先ほどの看板の件についても、やはり誰かみんな迷っている人、課長とかみんな見てると思うんですけどね、やっぱ3階上がってきて、もう玄関入ったときわかりますよ、何となく雰囲気。受付ぱっと見たらもう、ああ迷ってるなちゅうのは誰でもわかると思うのですよ。そしたら、自分たちがこれ書いてあげとけばわかるやろうって、そういう感覚で仕事してたら、もうほんといつもいつも住民に迷惑をかけた、困らしたりしてるんですよ。いいですか、町長。もう先ほど何回もこう言ってるんで、もうみな多分課長の人たちも十分わかったと思いますんで、これで、私の質問を終わります。

.....

議長（佐野 故雄君） 2番、池田淳子君。

議員（2番 池田 淳子君） 2番、池田淳子です。通告に従いまして一般質問を行います。

昨年末に行なわれました衆議院総選挙におきまして、民主党から再び自民党・公明党による連立政権が発足いたしました。まずは、デフレ脱却、景気回復が期待されるころですが、このたび、13兆円を超える大型補正予算により各自治体が計画している事業を前倒しで実施できるようになりました。これは、決してばらまきではなくあくまでも必要な事業を前倒しで行うものです。

ほんの一例ですが、学校耐震化、学校の非構造部材の耐震化、老朽化対策や防災機能強化、また、風水害や土砂災害に対する事前防災・減災対策、老朽化した社会インフラの総点検、公共施設の耐震化など安全性の強化、また、通学路対策などがあります。

学校の耐震化については、日出町は25年度中には取り組みますので、今回の補正には関係しないとは思いますが、その他、今申しました事業について該当する事業はあるのでしょうか。

以前にも一般質問に取り上げましたが、学校の非構造部材の耐震化についてはいかがでしょうか。該当する事業があるかどうか、まず答弁願います。あとの質問は質問席から行います。

議長（佐野 故雄君） 教育総務課長、宇都宮敏樹君。

教育委員会教育総務課長（宇都宮敏樹君） 池田淳子議員の御質問にお答えいたします。

補正予算の活用について、町はどう取り組むのかとの御質問ですが、学校教育施設の耐震補強につきましては、平成25年度完了を目途に計画を進めてまいりましたが、今回の国の補正予算によって前倒しをいたしまして、平成24年度事業として補正予算に計上をいたしました。

非構造部材の耐震化につきましても重要な課題であります。現在学校施設の耐震化を優先し進めていますので、非構造部材については耐震化ガイドブックに沿って可能なものから順次実施し、建築士などの専門の人員による非構造部材の耐震調査、点検についても早い時期に着手したいと考えております。

以上でございます。

議長（佐野 故雄君） 2番。

議員（2番 池田 淳子君） 可能なものとは何ですかね。学校の設置者ができるものからということですか。

議長（佐野 故雄君） 教育総務課長。

教育委員会教育総務課長（宇都宮敏樹君） 昨年、一般質問をいただきまして非構造部材のほうにつきまして、各学校の先生方のほうに、夏休みを中心に学校の先生方の調査をしていただきました。

その中で、できるものとしましては、例えば、ピアノの足あたりのキャスターがありますけども、これが防振用として下に動かないようなものを設置するとか、例えば棚の固定化とか、余り費用がかからなくてできるものもあると思います。そういうものから順次かかっていくのが必要ではないかというふうに思ってます。

議長（佐野 故雄君） 2番。

議員（2番 池田 淳子君） 順次かかっていくというのは、まだかかってないということですね。

昨年の12月に、これは道路の部分ではありますけど、山梨県の笹子トンネルで天井が落下し

ました。そういった事故が実際起きたわけですよ。これ学校ではないですが、学校でも実際に東日本大震災のときに、避難している体育館の天井が落下してけがをしたという例も発生しているわけです。前にも申し上げましたが、今回のその笹子トンネルに関しては、9名の方のとうとい命が奪われているわけですよ。

本当に何というんですかね、起こり得るはずがないだろうと思ったことが、実際起こっているわけであって、本当にその危機感を持つかどうかだと思うんですよ。

大きく天井の点検には、確かに足場を組むなり、何らかの器具をするなり、いろんな経費もかかりますし、予算措置、今回補正が出てますので、もし手を挙げてれば行われた事業ではないのかなと思うんですが、いろんなスケジュールの問題ですとか、大変と言えば大変だとは思いますが、ただ命にはかえられないわけですよ。その辺の危機感というものがあるのかどうか。

前回、一般質問させていただいた後に、夏休みに点検はさせていただいた、先生たちにできる範囲でさせていただいたということではあるんですが、何ですかね、そういった先ほどから言うスピード感とかですね、やっぱり危機感というものをしっかり持ってやっていただきたいと思うんですが、具体的に今回大きなというか、天井だとかそういったものの構造の点検の計画というか、予定があるかどうかお聞かせください。

議長（佐野 故雄君） 教育総務課長。

教育委員会教育総務課長（宇都宮敏樹君） 具体的に計画があるかという点でございますけども、昨年の夏に県のほうから、学校施設の専門技術者の派遣事業というのが25年度あるということで紹介をいただきました。

これはですね、非構造部材等の点検に関する専門的知識を有した者の派遣事業になります。これは、いわゆる教育委員会のほうに専門技術者が少ないということで改善の必要性、それから、また対策の手法当たりのアドバイザーというふうな人を派遣するという事業でございます。

これは、文部科学省のほうに県のほうに委託しまして、県のほうが専門家のほうに委嘱しまして、文部科学省の開催する講習会等を受けた方が、県のほうに何名かつくるという事業でございます。それを、市町村に派遣して非構造部材の点検をするという事業になります。

この事業につきまして、一応利用したいということで日出町も申し込みをしておりますけども、これは、平成25年度の事業となりますので、まだちょっと今のところはっきり具体的なところは聞いておりません。こういう事業を利用しながら今後かかわっていきいたいなというふうなところで考えております。

以上でございます。

議長（佐野 故雄君） 2番。

議員（2番 池田 淳子君） では、ぜひ子供の命を守るだけでなくてですね、実際に震災が

あった場合の避難場所にもなる大切な役割を果たす学校でございますので、きちんとそういう面で点検を、危機感を持ってスピード感を持ってやっていただきたいと思います。

通学路対策についても、私、書いてあったんですが、御答弁はいただけるんでしょうか。

議長（佐野 故雄君） 都市建設課長、川西求一君。

都市建設課長（川西 求一君） 具体的に通学路対策という案件でございますけども、今回の国の大型補正予算に絡みまして、我々としたら道路事業、公営住宅事業等々あるわけなんですけども、県・国のほうに通学路としての活用も絡めて要望していきました。

特に、道路事業については、25年度の事業の前倒しということで、とにかく道路の舗装補修ですね、これ通学路と関係あるのかと言われれば、我々とすれば一生懸命言いわけするわけなんですけども、舗装が、歩道の舗装等の劣化の激しいところ、これはやっぱり通学路になっております。そういう関係で、とにかくこういう予算については前倒しお願いしますということで、4千万の追加補正をお願いしたところでございます。

それから、先ほど言いましたようにトンネルの事故等もありまして、点検事業として国のほう、県のほうが助成をいただいておりますので、大きなのり面を抱えた道路、それから、危険地区ですね、これもやっぱり通学路にかかわりが全くないとは言えませんので、そういう総点検費用としまして、金額として100万、計4,100万につきまして要望しているところでございます。

それから、公営住宅。これは、直接通学路とはなかなか関連は難しいんですけども、住環境の整備ということで1千万の前倒しの予算を今要求、それとほぼ確定がなされておるわけです。

それから、他の道路事業につきましても、優先的にはやはり安心・安全そういうところから見ますと、通学路として多く利用されているところについては、道路整備の優先度を25年度については図っていきたいと思っております。

以上です。

議長（佐野 故雄君） 2番。

議員（2番 池田 淳子君） 財政課長にお聞きします。

この事業は、以前に手を挙げていた事業に関してのみ該当ということですかね。平成24年度の補正予算。いいですか。

議長（佐野 故雄君） 財政課長、高倉伸介君。

財政課長（高倉 伸介君） この前倒し予算につきましては、国の補助金のついている予算ということになっておりますので、25年度実施する予定のものを前倒しするということになります。

今、日出町の関係するところは、今2課になっております。都市建設課では、今言いました舗装と道路のストック点検と公営住宅で5,100万円で、あと、小学校・中学校の耐震補強で藤原小学校校舎耐震補強事業、大神小学校校舎屋体の耐震補強事業、大神中学校屋体の耐震補強事

業ということで、これが、3億7,517万ほどありまして、全部で4億2,600万円ほどの前倒し予算を、今回3月補正予算に組みさせていただいております。

以上でございます。

議長（佐野 故雄君） 2番。

議員（2番 池田 淳子君） じゃ、補正がおりるから、今から手を挙げてこれをしたいということとはできないということですよ。

議長（佐野 故雄君） 財政課長。

財政課長（高倉 伸介君） その説明も、市町村振興課から一覧表にしてまたお配りしすというふうにいただいているんですけど、返事はいただいているんですけど、Q & Aで。それ以外にまだ具体的なものが、国の予算が通ったばかりなので、まだ県のほうにおりてきていないみたいなので、まだ町村までそれ以外のものは来ておりません。

以上です。

議長（佐野 故雄君） 2番。

議員（2番 池田 淳子君） 目的は景気回復、デフレ脱却ということで、大きな公共工事等も含まれると思いますけども、もしそういう該当するもので手を挙げられるものがあれば、こういった補助金、交付金等を使ってですね、しっかりその安全対策含めてやっていただきたいと思います。

で、通学路、済みません、特化して申しわけないんですが、通学路の安全対策の点検はされましたでしょうか。もしされたのであれば、その何力所ぐらいふぐあいがあったとかわかりますか。

議長（佐野 故雄君） 都市建設課長。

都市建設課長（川西 求一君） 通学路の安全点検につきましては、昨年7月、8月京都の事故があって以来、教育委員会の学校教育課長等と歩調を合わせ、また、振興局単位で危険箇所の把握、件数を行ってまいりました。今ちょっと、手元にはその具体的な件数はございませんけど、もし必要ならば後から資料を提出したいと思います。

議長（佐野 故雄君） 学校教育課長、清家健志君。

教育委員会学校教育課長（清家 健志君） 今、都市建設課長が申されたとおり、昨年度、京都亀岡の朝の登校中の列に車が突っ込んで子供が死亡する事故を受けまして、杵築日出警察署、それから大分県ですね、それから別府土木事務所、それから教育委員会、それから都市建設課等々で合同点検を行いました。

その合同点検の手法につきましては、まず各学校に通学路の危険箇所を挙げていただいて、その危険箇所を関係機関が一緒になって、学校は教頭先生が多かったと思いますが、一緒に入って全ての調査を行いました。

場所につきましては、小学校校区ごとになるんですが、全て大体20カ所ぐらいだったと思います。そのうち、例えば今、日出で言いますと、佐尾のデカ弁の前、酒井のところに少しガードレールがついたんですが、ああいうところだとか、例えば、工藤輪業前の交差点に信号がつかまりました。ああいうものだとか、大神小学校のところの交差点が歩車分離式の信号機に変わったりとか、幾分、今改善をしております。

あと、歩道につきましては、都市建設課のほうで予算立てをして改善をしていただいているところでございます。

以上です。

議長（佐野 故雄君） 2番。

議員（2番 池田 淳子君） 気がついたところは、確かにあそこの……ごめんなさい、信号がつかまりました工藤輪業さんのとこね。それとあと、藤原の福祉センターの先のあそこも信号がつかまりましたよね。あと、道路が狭いところだとか、かなりいろんな問題箇所がございますので、そういったところも順次点検をしていただきながら、私たちも気がつけばその都度言わせていただいて、歩道の線が消えてるからということで先般もお願いして、実際にきちんと引き直していただいたところもあるんですけど。

あと、ストップマークは、生活環境課さんですかね。ストップマークがありますね。ここで1回とまりましょうと。あれは、子供会と合同でやってると思うんですけども、地区によってはなかなかそこに手が届かない、届いてなくてもう一、二年やってないんじゃないかなってぐらい薄くなっているようなところもあるので、そういったところの指導の課はどちらになられますかね。また、言っていただければありがたいなと思います。

あと、老朽化対策、老朽した社会インフラの総点検、そういったものにも予算がつくようになっていくんですけども、こういった事前にできることしっかりやっていただきたいなと思います。

では、次の質問に移らせていただきます。観光資源の利活用についてということでお尋ねいたします。

以前、城山は雑草が生い茂り、荒れ放題だったとお聞きいたしました。それが今では、地元の有志の方たちにより周辺道路を含め、きれいに整備がされております。城山から望む景色は町内が一望でき、別府湾、高崎山、天気がよければ四国まで見渡せる、まさに絶景という絶景でございました。このようなすばらしい場所を私恥ずかしながら存じませんでした。私以外にも知らない方は多いのではないのでしょうか。

健康志向でウォーキングやマラソンをされる方がたくさんいらっしゃいます。日出町でも「ザピエルの道」ウォーキングには、毎年、県内外から多くの方たちの参加をいただいております。この城山へのコースをウォーキングコースとして、城山からの景色を眺めながら一休みするなど、

何か活用はできないかお尋ねいたします。

議長（佐野 故雄君） 商工観光課長、河野晋一君。

商工観光課長（河野 晋一君） 池田議員の御質問にお答えいたします。

城山は現在、地元有志によりきれいに整備されており、ウォーキング大会のコースに含むなど、何か活用はできないかという御質問でございますが、今現在、藤原の西部シニアクラブが横津神社から城山へのウォーキングコースを整備し、さらに城山の清掃活動を行っております。

西部シニアクラブより、このコースを活用してほしいとの町に働きかけがありまして、昨年クラブの方と一緒にコースを歩き、今後の取り組みについて話し合いを行ってまいりました。その中で、地元の熱心な取り組み姿勢を感じたところでございます。

先ほど、議員のお話の中にもありましたように、現在、健康志向が高まっておりましてウォーキング人口もふえております。日出町におきましても「ザビエルの道」ウォーキング大会の開催や、ウォーキング文化の道として幾つかのコースを設定するなど、観光につなげていく取り組みも行っているところでございます。

また、このコースはウォーキングコースと言いますより、山を歩くトレッキングコースの分類になるかもしれませんが、城山は大友氏の時代、真嶽城と呼ばれておりまして、歴史的な価値もある場所でございます。特に城山の展望所からは、日出町が一望できるすばらしい景色がありまして、ぜひ多くの方に見てもらいたいスポットであります。

「ザビエルの道」の西鹿鳴越道、殿様道の東鹿鳴越道との連携の可能性もあり、今後多くの方に歩いてもらうためのマップの作成やホームページでの紹介、それから、イベントの実施、健康づくり協議会などへの団体への働きかけなど、観光協会、地域と一緒に取り組んでまいりたいなというふうに考えております。

それから、「ザビエルの道」ウォーキング大会などの大会のコースに含めるということも検討をしてみたいというふうに考えております。

なお、このコースを継続的に地元の方に維持・管理していただくための予算を25年度計上させていただきます。

以上でございます。

議長（佐野 故雄君） 2番。

議員（2番 池田 淳子君） 本当に有志の方だけで、こういったすばらしく道を整備されてですね、また城山もきれいに整備をされて、以前の雑草が生い茂ってる写真も私見せていただいたんですね。今、実際行くと子供たちが遠足で来て遊べるぐらいのとても整備された中を、本当に有志の方たちだけでよくやっただけというふうに本当に関心をいたしました。

そういったものを本当に活用していただけるといいなと思うんですけども、確かに急傾斜と

いかすごい坂もあったりしてなかなかそのコースを、私が素人で簡単にウォーキングコースにいかがですかとか言っても、すぐには言えないと思うんですけども、継続できるそういった形で観光にというか、そういう皆さんに知らせていただける、そういうことがやっぱり必要じゃないかなと思うんですよね。

町長は、ここの城山登ってみられたことがあるんでしょうか。

議長（佐野 故雄君） 町長、工藤義見君。

町長（工藤 義見君） 十分承知しております。地元の方々が大変熱心に開発していただいて、大変いい道として復元できておると思います。

城山はですね、昔は関の三本松じゃありませんけども松がありまして、多くの皆さんは、あそこで皆、子供たちは遠足に行った まさに遠足に行った懐かしい城山であります。

ちょっと私は、あそこですね、お寺の所有地になっております。したがって、できるだけ御了解いただくということで、もう5年ぐらい前に、あの地域の歴史・文化を教育委員会の生涯学習課の文化財担当に資料つくっていただいて、私それを持っております。真嶽城を中心に、また藤原からの道に石段がありましたり、大変懐かしいというか、いい、広い道であります。あそこは若干、私は危険に感じておりますが、鳥居がありますのでちょっと壊れかけております。

したがって、あれを何とか修理しないと危険だなと思っておりますし、また、西側から上がるのが滑りやすく、非常にこの車で着いたときに山に行きにくかったんで、できるだけ地元をお願いしたら、今石段ができていると思います。

あと、展望広場として昔はいろいろ使ってフライトやっておりましたが、そういうところが危険でありますので、ぜひ、あそこにフェンスをつくる等のことをする必要があるということは、私が以前からも申し上げております。豊岡団地の方が、大変熱心に草刈りと手入れをしていただいて、その方についても、私は大変感謝をしております。

今後は、あの辺についてグラウンドですね、黒岩グラウンドの向こうから上がって行く道がやや狭いんでありますが、それでも大変ウォーキング等についてはいい道だと思います。ぜひ、次の開発構想の一つの地点ではないかなと、そういうふうに思っております。

ただ、町の所有地でないという点がございますので、十分地元の皆さん方と相談しながら、どうぞというような御意見も聞いておりますので、対処してまいりたいと思います。

以上です。

議長（佐野 故雄君） 2番。

議員（2番 池田 淳子君） ぜひスピード感を持って、またホームページに載せるにしても、マップを作成するにしても、早急にやっていただきたいと思います。せっかくあそこまできれいに整備をされてですね、確かに段になっているといいますが、広場のところは危ない部分もあり

ますけども、そういった整備ももしできるのであれば、お願いをしたいと思います。

観光資源の利活用についてということだったんで、具体的にこの城山のことは取り上げましたけども、観光全体に限って、城山に限らずもっと観光資源を活用すべきだと考えるんですが、日出町にはたくさんいい素材が点々とあると思うんです。ですけども、それが生かされていないといえますか、単発で終わるといえるかですね、今回のひなまつりにしても、お客さんってどのくらい見えてるんですかね。数字は今わかりますか。

議長（佐野 故雄君） 商工観光課長。

商工観光課長（河野 晋一君） 正確には把握しておりませんが、昨年は的山荘のほうで成清家のおひな様を展示したということで、かなり多かったんですけども、ことしは二の丸館のほうで2千人前後は見えてると思います。

以上です。

議長（佐野 故雄君） 2番。

議員（2番 池田 淳子君） ことしは的山荘のおひな様は、宇佐の県立資料館かどこかに行っちゃったんですよね。それはなぜですか。

議長（佐野 故雄君） 商工観光課長。

商工観光課長（河野 晋一君） 的山荘でのひなの展示は4年ほど続けてきたと思うんですが、その中で、的山荘の環境が、乾燥がかなりひどくてですね、やっぱり、このおひな様の傷みがかなりひどくなっているということで、これ以上続けると、ちょっともう取り返しのつかないような状況になるということで、今、宇佐の歴史博物館のほうに寄託をしておりますが、その湿度管理のできる環境の中で展示ということで、今回そういう形での展示になっております。

以上です。

議長（佐野 故雄君） 2番。

議員（2番 池田 淳子君） おひな祭りとかやってるところはたくさんあると思うんですね。城下町と名のつくところは、杵築にしても、日田、日田が有名ですけど、お隣の杵築、それから臼杵、ひな祭りやってますけど、一番その寂しいのが、城下町と呼ばれながらも寂しいのは日出町でないかなと思いますね。

二の丸館に私行ったんですけど、真ん中に何かドーンとおひな様が、何か塔のように立っててですね、あれを見に来て2千人も見えたんですか。（発言する者あり）ああそうですか。女性っておひな様好きっていうか、おひなめぐりがすごく好きっていうか、そういった散策をしたいと思うんですよね。

だけど、規模的にこれだけちっちゃくって、どこにあるかもわからない。ひな祭りに関するイベントが的山荘でやってますということですけども、本当におひな様を見て回りたいんだけども、

二の丸館にあの程度のおひな様があってということでは、なかなか外から観光客を呼べるとは私は思えないんですが、ここにはもっと予算をつけてですよ、やるんならもっと大規模にやるってことはできませんか。

議長（佐野 故雄君） 商工観光課長。

商工観光課長（河野 晋一君） ひな祭りにつきましては、今回協力、個人の協力の方も含めまして11カ所で展示をさせていただきましたけども、さらに協力者を募って、もう少し見て回る箇所をふやすというような工夫もできると思いますし、予算についてはちょっとまた、今後検討していきたいなというふうに思っております。

以上です。

議長（佐野 故雄君） 2番。

議員（2番 池田 淳子君） 予算の絡むことになると、言いにくかったりですね、町長の顔色を見るようなことになるのかなと思うのですが。

町長ね、観光というのは、本当に単発で終わるものではないと思うのですね。それをコースで回って、確かに日出町で観光客何千人、何万人って、きのう何か答弁でございましたけど、それは、多分ハーモニーランドに見えられるお客様があれですね、夏休み、ゴールデンウィーク等長期休暇に見えますけど、だけど、ハーモニーランドでそのまま帰ってらっしゃるんだと思うんです。もしか日出町どこかに泊まるかもしれないけどハーモニーランド以外、日出町どこか見るとこあるかなというのはなかなか私も見つけにくくて御紹介しにくいというか、ないなっていうふうに感じるんですね。

だから、これをもっと何か、何と言うんですか、民間の方の知恵もかりてそういった企画を練ってする形というか、もっと観光に力を入れるのであれば、もっと課長が頑張って予算を取って、町長に強く言って予算をいただいて何かできませんか。町長、お願いします。

議長（佐野 故雄君） 池田議員にお尋ねします。

観光資源を充実させ利用活用ということでございますので、今のそれは、今の観光資源のあれで質問しているんですか。町長。

町長（工藤 義見君） 私は観光のことに常日ごろ言っているというのは、皆さんが嫌なほど言ってるわけでありまして。私は、観光ほどすばらしい産業はないと思っております。よその人たちが日出町に来てにぎわいの場になり、町内の皆さんとも交流ができ、ここで所得を落とすわけがあります。ですから、私は、観光というのはすばらしい産業だと、そういうふうに思ってます。

そして、また日出町全体が私は自然公園だと思ってます。大神ファームだとか、石ころたちの動物園、ソラージュ大分日出、それから糸ヶ浜周辺の海岸、それからこのお城周辺、それから島山を周辺に遊歩道、それから上に経塚山、七つ石山、それからずっと見ますと、私は、まさに卵

つくってるところもありますし、農園もありますし、ですから、私は日出町全体が公園だと思っています。

ですから、まさに多くの人に来てほしいと思います。イベントも大切であります。ぜひ予算も私はつけるようにということっておりますが、ぜひ、議員の皆さん方も観光を敵視し、罪悪視しないようにぜひお願いしたいと、ぜひ、観光を積極的に進めろというふうに言っていただきたいと思います。

私も、今、的山荘だけでちょっと話が出ましたが、約1万5千人いろんな方が見えております。非常に重要なお客で、今、日出町に来るといったら、日出に来られる方もあるが、バス借り切っては余り来ません。的山荘に来るんであります。それは全て県外の人たち、非常に的山荘の価値を認めて、5月21日は名人戦 将棋。これは、将棋連盟も朝日新聞、毎日新聞ここでと、九州はここでこう言っているわけであります。

ですから、このすばらしいこの資源を、私は歴史・文化の資源を私どもがしっかり認めて、それをもっともっと磨きをかけて皆さん方に紹介していく。そして、皆さん日出町の人たちは、これを自慢に思い、誇りに思うような町にしたいと、そういうふうに思っているんな手を打っておるわけであります。

ぜひ、全て私は行政でありますからバランスのとれた行政でないと、医療も福祉も環境問題も全てであります、その中に非常に重要な部門が私は観光だと思っています。なかなか多くの人たちが来てそこにお金を落としてないという実態がありますが、それでも多くの人たちが日出のすばらしい景観と自然と歴史を学ぶために、三々五々出てきて何か静かに過ごすときは日出に行こうと、あそこで歩こうと、そういう町にぜひなっていきたいというふうに思います。

確かにホテルもあります。ソラージュ大分のロイヤルもあります。それからハーモニーランドにもあります。いろいろ考えると、私は資源に一級品はないかもしれませんが、これほど数多い資源のある町はめったにないわけであります。ぜひそういう資源を生かしてもらいたいと思いますので、予算化について私のほうからもぜひ皆さん方にもよろしく、議員の皆さん方にもよろしくお願いしたいと思います。

以上です。

議長（佐野 故雄君） 2番。

議員（2番 池田 淳子君） まさに観光というのは、本当に外から来た人がお金を落としてくれる大事な産業だと思います。なので、日出町にある大事な大事な、その観光資源を上手に使って利活用していただいて、外からもっともっとお客様を呼べるようなそんな町にみんなで一緒に頑張っていけたらなと思っております。

以上で質問を終わります。

議長（佐野 故雄君） これで一般質問を終わります。

散会の宣告

議長（佐野 故雄君） 以上で本日の日程は全部終了しました。本日はこれで散会したいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（佐野 故雄君） 異議なしと認めます。したがって、本日はこれにて散会することに決定しました。

本日はこれで散会します。御苦労さまでした。

午前11時25分散会